

## トカラ列島の話 その4

大学2年目、専門課程に進む前に指導を受けていた齊藤先生の1974年の夏の実習先は、トカラ当時、この島に行くには、先に紹介した「第3 としま丸」で鹿児島港から延々と島伝いに行く方法と、先に奄美大島まで照国郵船（現マリックスライン）の4千トンの大型フェリー「クィーンコーラル 2」\*で奄美大島の名瀬港まで渡り、そこから上りの「第3 としま丸」で1つだけ島を渡るという方法がありました。もちろん、我々はロマンチックな名とは裏腹に20時間近くを掛けて宝島へ渡りました。

「クィーンコーラル」とは1972年の沖縄本土復帰時から就航した船で、名瀬-鹿児島、那覇-鹿児島とを結ぶ路線がありました。この船では、初期アイドルブームを作った沖縄出身の南沙織（後に写真家・篠山紀信の妻）がイメージキャラクターとなり、船内では彼女の歌う『走れクィーンコーラル』がずっと流れていたのを覚えています。確か船内のインフォメーションでこのEPレコードをもらった記憶があり、きっと家のどこかに眠っているはずです。

さて、宝島は隆起サンゴ礁でできた「低島」の代表的な島で最も高いイマキラ岳でも292m 足らずです。現在では車も通ることのできる道ができており、だれ刈島・巖端・登壺島をがたぎる山です。すべてが隆起サンゴ礁でできており、山頂付近でもサンゴ片や貝殻が露出しています。途中には、サンゴ礁の島特有の鍾乳洞もあり、興味がある人は洞窟探検も可能です。ただ、「低島」である宝島と小宝島にのみトカラハブと *Protobothrops tokarensis* というハブの亜種\*が棲息しており、毒性は弱いとは言え注意が必要です。



宝島 十島村



『走れクィーンコーラル』のジャケット



イマキラ岳



トカラハブ

Wikipedia より

石飛 一吉

### 参考資料

\*現在、鹿児島-奄美大島間は、マリックスライン（ギリシャ船籍）の「クィーンコーラル クロス」8000ト（653名乗り乗用車約44台+トラック約30台）が運行中。

\*トカラハブ以外にもヒメハブ、サキシマハブの亜種がいる。